

令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

福井市東藤島小学校

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

家庭… 育友会 (PTA) 会長

地域… 自治会連合会会長、公民館長、育成会代表、青少年育成区
民会議代表、自主防災会代表、こども園園長、児童館館
長

学校… 校長、教頭、教務主任

地域コーディネーター (4名)

- ・ 東藤島公民館館長
- ・ 東藤島地区青少年育成区民会議会長
- ・ 岡倉天心顕彰会事務局代表
- ・ まちづくり推進協議会ビオトープ事業委員長

(2) 協議会の内容

- ① 開催回数 3回
- ② 開催日程
・ 6月、11月、2月
- ③ 協議内容
・ 子どもの安全・安心に関すること
・ 地域の教育資源活用に関すること
(特にふるさとのよさを体験する学習)
・ 家庭・地域との連携に関すること
・ 学校評価と改善に関すること
・ 中学校区教育に関すること

(3) 協議会における成果と課題

- ・ 学校経営の工夫・改善 (学校経営上の諸問題、学校評価) について、業務改善や地域との連携の分野で、委員の方から示唆に富んだ意見をいただいた。
- ・ 児童の安全確保 (見守り体制の充実、危険箇所点検・把握、緊急連絡体制) について、児童と地域の実態を検証し、より有効な安全対策の構築につながった。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

- ・ 児童自らが地域の歴史や伝統、自然や特色を深く知ることで、地域の良さや課題を見つめ直し、自分ができることを考え、地域に発信する。
- ・ 地域について改めて考え、地域の人と交流するなかで、地域に対する誇りや愛着をもつことができる。

(2) 活動の実際

① ビオトープ観察、カブトムシ飼育を通して (5年生)

- ・ 外部の専門家を招き、ビオトープの観察会を行い、生き物の名前や特徴などの説明を聞き、ビオトープにアメリカザリガニをはじめとする外来種が増えてきたことやそれに伴って住んでいる生き物の種類が変わってきたことを学んだ。これらの学習と並行して、カブトムシ飼育に携わった。成虫になったカブトムシの観察やさなぎが越冬するために場所づくりと引越しの世話をを行った。これらの学びを発表したり、壁新聞にまとめたりして発信した。

② 見守り隊との交流を通して (全校)

- ・ 日頃お世話になっている見守り隊の方への感謝を伝える会を行った。全児童と見守り隊の方との交流を深めるために、5・6年生の運営でレクリエーションを行い、交流の最後には児童が準備した感謝のメッセージとプレゼントを贈った。また、地域の方が小学生の子どもたち抱いている願いを聞いたり、代表者が感謝の言葉を伝えたりした。



(3) 地域コーディネーターの活動概要

- ・地域コーディネーター選出への協力および学校との連絡会の総括
- ・ビオトープ学習における外部専門家の招聘、地域住民との交流学习の調整
- ・カブトムシ飼育学習の講師
- ・岡倉天心学習の講師
- ・天心忌参加の調整
- ・見守り隊との交流会の調整

(4) 特に工夫した事項

- ・地域の方を先生として出前授業を行うことで、地域への思いや地域のすばらしさを直接学べる機会を多くもつようにする。
- ・学習課題に合わせて、専門家から学べる機会ももつ。
- ・地域の方と交流を深めたり、日頃の感謝を伝えたりする場を多くもつ。
- ・地域を通しての学びを、地区文化祭の場や学校参観日に公開することで、直接地域へ発信する。小学生の学習発表を見てもらえる場とするだけではなく、地域の人にとっても、改めて地域のことを深く知る機会にしていく。
- ・学校に訪れ直接見ることができない方にも、全戸配布の学校だよりの中で複数回、発信していく。

(5) 成果と課題

本事業の最終年ということで、前年度までの成果や反省を踏まえて、活動を深化させることができた。地域コーディネーターや地域の方の熱意に触れることで、子どもたちの中に積極的に学習に参加する姿勢が見られるようになってきた。そして、この児童の学ぶ姿を保護者や地域へ発信できたことは、子どもたちにとっては反応を肌で感じられ、成果を実感できる機会となり次への意欲へとつながった。

今後は、これまでに構築したネットワークを生かして、児童の学びをさらに深化させ、地域とも密接な関係を築いていくことが大切になると考えている。特に、ビオトープ学習では継続した観察が必要なので学びの連続を考慮したカリキュラムを工夫したい。